

# 世界の主な再処理工場

(2025年1月現在)

国名	運転者	所在地	施設名	年間再処理能力 (tU <sup>*1</sup> /年)	営業運転
中国	蘭州核燃料複合施設	甘肃省蘭州市	蘭州パイロット再処理工場	—	2010
フランス	Orano R La Hague	ラ・アーグ	ラ・アーグ工場	1,700tHM	1958~ <sup>*2</sup>
インド	India Gandhi Centre for Atomic Research (IGCAR)	カルバッカム	高速炉燃料実証再処理施設	—	2024
	Bhabha Atomic Research Centre (BARC)		高速炉燃料サイクル施設	—	—
日本	日本原燃株式会社 (JNFL)	青森県六ヶ所村	六ヶ所原子燃料サイクル施設 (再処理工場)	800	2026年度中 (しゅん工)
ロシア	PA Mayak	オゼルスク	生産合同マヤク再処理工場 RT-1 Plant	400tHM	1977.4
	Mining and Chemical Complex (MCC)	ゼレノゴルスク	Pilot Demonstration Center (PDC)	4.4tHM (Phase I)	2016 (Phase I)
				220tHM (Phase II)	2025予定 (Phase II)
			RT-2 Plant	800tHM	2035予定

\*1 U:ウランが金属の状態であるときの質量 HM:MOX中のプルトニウムとウランの金属成分の質量

\*2 UP1施設:1958、UP2施設:1966、UP2-400施設:1966、UP2-800施設:1994、UP3施設:1990